５【その他】

（１）ICT 機器の効果的活用

★基本的な考え方★
○学び合いを活性化し、児童一人一人の「深い学び」につなげるために、ＩＣＴ機器を効果的に活用する。活用場面については、児童の発達段階や目的を考えて以下のように設定し、豊かなかかわり合いの充実を図る。
①よい動きのこつやポイントを全体で焦点化・共有化するためのツール
②友だちへアドバイスをするためのツール
③自分自身の動きを確認するためのツール

①よい動きのこつやポイントを全体で焦点化・共有化するためのツール

直接的指導場面において、ＩＣＴ機器を活用した。スロー再生等でくり返し動きを見ることで、よい動きのこつやポイントを焦点化し、視覚的に共有しやすくした。その際、引き出されたこつやポイントは「イメージ言葉」に整理し、その後の学び合いで積極的に活用できるようにした。

(6 年生：支えるこつの共有化)

②友だちへアドバイスするためのツール

グループ学習でタブレット型ＰＣを活用した。友だちの動きを動画で撮影し、直接的指導で共有した「こつやポイント」ができているか確認したり、気付きを伝え合ったりした。器械運動や表現運動では、一瞬の動きを捉えるために「コマ送り再生機能」を使い、跳び箱運動の踏み切りの位置や着手の位置、表現運動の目線や指先の動き等、細かい部分まで確認していった。伝えたいことをより焦点化することで、学び合いが活性化し、「深い」につながるようにした。

(6 年生：細かい部分の確認)

③自分自身の動きを確認するためのツール

グループ学習において、タブレット型ＰＣの「追っかけ再生機能」を活用して自分たちの動きを確認し合う時間と場の設定を行った。撮影した動きが遅れて再生される機能を用いて、運動に取り組んだ後、自分自身の動きを即座に確認し、改善点を知り、再度挑戦できるようにした。

(6 年生：自分の動きを確認)